

I 事業の概要（地域の実情含む）

市街地の区画整理や道路・都市公園・堤防の整備など復興の様子を見学し、取材・調査・発信などの体験的な学習をおして、地域に対する理解を深めるとともに、防災への意識を高め、自他の命を大切にしようとする態度を育成する。（防災教育）

地域の資源を生かした特色ある産業（野田塩、山葡萄、鮭稚魚、ワカメ・ホタテの養殖）や復興都市公園「十府ヶ浦公園」など地域素材を生かした学習や交流をおして、ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する。（復興教育）

II 取組の概要

(1) 防災教育【命のつながり 防災】

① 震災学習列車の活用

5年生は、総合的な学習の時間に野田の復興状況や復興都市公園の役割などについて調べる活動を行った。また、三陸鉄道震災学習列車に乗車して震災当時の様子を学び、自然災害の起こり方や備えについても調べてまとめた。特に、震災学習列車乗車では、三陸鉄道で働く方から震災当時の様子をくわしく聞くとともに、命を守るためにとった行動にもふれていただいたことで、児童の防災への意識を一層高めることができた。



5年生の児童にとって、震災当時の記憶はあまり残っていないが、この活動をおして津波の被害の大きさを理解し、これからの生活で防災意識を大切にしたいという実感をもつことができた。

② 防災集会、避難訓練一斉下校

地震発生による津波警報・注意報発令の際、児童が登下校中であっても安全に避難できるよう、毎年、防災集会、避難訓練一斉下校を実施している。

児童は、地区ごとに分かれて一斉に下校しながら、指定緊急避難場所へ避難する。毎年繰り返しているので、児童も素早く行動することができるようになった。

(2) 復興教育【地域づくり ボランティア】

① 「のんちゃん花壇」整備

平成29年6月竣工の復興都市公園「十府ヶ浦公園」は、野田村、商工会、企業、学校が担当範囲を決めて整備を行っている。本校児童は、公園内の「のんちゃん花壇」の整備をスマイル班（縦割り班）活動のひとつとして実施している。花の苗植え、草取り、冬になる前の花壇の後片付けなど、年間を通じて高学年児童が下学年にやさしく教えながら活動した。



今年度で2年目になる本取組により、児童は、地域整備を行っている野田村役場の方々ともかかわり、自分たちも精一杯協力していきたいという気持ちをますます強くもつことができた。

② 野田小合奏団の取組

本校には、特設クラブの「合奏団」があり、児童29名が吹奏楽の練習に励んでいる。今年度は、吹奏楽コンクール県大会、アンサンブルコンテスト東北大会まで出場するなど活躍した。その他にも、台湾楽団との共同演奏、野田祭りや野田村文化祭など、地域の方々にも元気と笑顔を届けようという気持ちを持ち、心を一つにして演奏に励んでいる。



心情をこれからも育てていく必要があると考える。

参考資料

野田小だより 平成30年度 No. 4 H30.5.29 文責 校長 吉田久美子

地域に笑顔の花を 咲かせよう  スマイル

5月18日(日)、十津ヶ淵公園の花壇に、子供たちが植の苗を植えました。12のスマイル畑に並びながら植えつけ、あっという間に作業は終わりました。花壇には、「スマイル」の文字を筆どり、これを同じ笑顔の方が笑顔になりますよという思いを込めて、一つ一つ丁寧に植えつけました。花壇に出席する前に、児童会を代表して5年生の山下美穂さんが、ゆにゆくこな話をしてくれました。以下に紹介します。

2011年に震災が起きたとき、当時の5・6年生が地味の人たちを少しでも元気にしようと、花を植える計画を立てました。花壇をデザインしたり、野田の気候に合った花を贈りつけるための実験をしたりするなど、とても苦労したそうです。ですから、今日植える花には、卒業生のたくさんのお思いが詰まっています。これまでの卒業生の思いが、地味の人たちの笑顔のために、だてわり班で協力しながら、気持ちを込めて植えましょう。

この作業を行う前に、保護者の皆様を始め、野田村役場の皆様、県土木技術員会連合会の皆様、苗圃者の皆様などに、草取りや苗の手配、下準備などにたくさんお手伝いいただきました。本当にありがとうございます。

元巨人軍 仁志監督がやって来た！

6月22日(金)、3・4年生が、元プロ野球選手で侍ジャパンU12のコーチを務める仁志監督に球の投げ方を教えていただきました。仁志監督には、どのスポーツを始めるにしても、今は運動能力を高める準備が必要であることや、くじけそうになったときには、どうしてそれを始めたのか自分に問いかけることなど、大切なことをたくさん教えていただきました。勉強も一緒にがんばりました。

「ピンポン球を遊ばせよう」

Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 取組における成果

「震災学習列車」「防災集会、避難訓練一斉下校」などの防災教育の活動とおして、地域の復興の様子を体験的に実感させることができました。また、防災意識もさらに高まり、今後の生活に活かそうという気持ちをもたせることができました。

「のんちゃん花壇整備」「野田小合奏団」などの復興教育の活動により、児童と地域の方々とのかわる機会もさらに増し、故郷であるこの野田村への児童の愛着も高まっていると感じる。また、この地に生活している児童自身も、自分にできることを考えて実際に取り組みたいという思いをもつことができた。

(2) 今後の課題

今後もこれらの学習や活動に継続的に取り組み、地域を愛し、地域のために進んで協力しようとする

参考資料

5年生 総合シート 10月26日(金)
名前 ()

震災では十津ヶ淵駅の前にある水門の上を波がこぼれ、水門の屋根が壊れ上がるまで津波が来たということになりました。また津波対策のために、三陸鉄道の北リアス線だけでトンネルが43か所もあることになりました。

復興では震災当時は、壊れたらけた、海や川も、どいどい復興して、前の震災前の姿にもどらうとあっておどろきました。

今日震災学習列車に乗車して、私は津波当時の記憶はほとんどないけれど、津波で野田村は大きな被害にあったことも、明治29年には三陸鉄道が動き始めたこと、津波が起きて4日後に動き始め、全線運車を再開するのに3年かかったことなど、今日たくさん学んだことがあったので、それをこれからの生活に生かしていきたいです。